

2020 年度 小委員会活動成果報告

(2021 年 2 月 12 日作成)

小委員会名	水と緑の公私計画論とマネジメント小委員会		主 査 名：岡村幸二 就任年月：2020 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (水環境運営委員会)		委員長名：持田 灯 主 査 名：中野民雄
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2021 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	公私の主体間の多様な関係を分析し、水と緑の空間のあり方及び人と自然の関係を明らかにして、公私計画論及びマネジメントのあり方を提案する。 初年度：前研究を進めて、公私計画論の対象を「水」と「緑」に拡大し、公私の場におけるマネジメントのあり方を検討し、研究内容の書籍化の準備を行う。 2 年度：「公私計画論」のテーマで取り組んだ、前回 4 年間+今回 2 年間の小委員会活動の成果全体を整理したうえで、書籍刊行の骨格を整理して社会へ広く発信していくための準備を行う。		
委 員 構 成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：なし		
	主査：岡村幸二 (建設技術研究所) 幹事：菅原遼 (日本大学) 委員：青木秀史 (オリエンタルコンサルタント)、飯田哲徳 (建設技術研究所)、市川尚紀 (近畿大学)、上山肇 (法政大学)、畔柳昭雄 (日本大学)、小海諄 (日本工営)、田中貴宏 (広島大学)、長屋静子 (流域フォーラム)、村川三郎 (広島大学名誉教授)、山田圭二郎 (金沢工業大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2020 年度予算	52,000 円	ホームページ公開の有無：なし 委員会 HP アドレス：なし	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. コロナ禍で会議や調査ができずに、現地サーベイなどは不十分 (70%) 2. 研究成果のまとめ方・刊行物の目次構成は十分に検討できた (80%)
委員会活動の問題点 ・課題	1. 2021 年度中に刊行物「水と緑の公私計画論 (仮称)」を発行する予定である。 2. 環境工学委員会での共同イベントなどを通じて、「公私計画論」の PR をもっと進めていくべきであると思う。 3. コロナ対応での Web 会議では、議論のまとめが難しかった。 4. 全体として、研究内容が思うように進められなかった。

2020 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>・今年度 2020 年度の日本建築学会大会論文において、本小委員会メンバー及び大学研究室学生により、「セッション・水と緑の公私計画論」を 6 編作成したことは、本研究の内容を広く普及するうえで有意義だったと考える。</p> <p>・今年度の日本建築学会大会論文発表は実現しなかったが、本小委員会の中で「水と緑の公私計画論に関する研究 (NO.13~18)」について、8 月 27 日に小委員会の中、オンラインで論文のプレゼンテーションを行い、意見交換を行うことができた。</p> <p>・当初、2020 年度を公私計画論の最終年度として臨んだが、コロナ禍の研究活動は十分な取りまとめがはかどらず、同時に進行した書籍化の準備と合わせてもう 1 年の実質延長が必要となった。(新年度の小委員会を 1 年間立ち上げる予定である。)</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。